



薬局だより

白庭病院
2017年8月

夏の虫刺されとアナフィラキシー

夏も本番！海や山にでかけることも増えますね。そこで気になるのが虫。夏は虫たちも活動的になる季節です。

今年はヒアリが上陸して話題となっていますが、それ以外にも注意すべき虫たちがいます。「蜂は2度刺されると危険」と聞いたことがありますか？本当に2度目が危険なのか、何が起こるのか、治療薬も含め紹介させていただきます。

・ヒアリ

特徴：外来種であり、土で大きなアリ塚を作る。
攻撃性が強い。

見た目：赤っぽくツヤツヤしている。腹部(おしり)の部分は暗い色。
小さいアリ(2.5mm~6mm)で他のアリと見分けにくい。

刺されると：強い激しい痛みを感じる。

20~30分安静にして、体調の変化がないか注意してください。

*現在、奈良県内では見つかっていません。



・マダニ

特徴：家の中ではなく山間部や草むらに生息。(イエダニとは違います)
通常2~3mmですが血を吸うと1cm程度に膨らむ。

刺されると：長時間(数日から、長いものは10日間以上)吸血しますが痛みや痒み等の症状は少なく気づかないことも多い。

無理に引き抜こうとするとマダニの一部が皮膚内に残って化膿したり、マダニの体液を逆流させるおそれがあります。医療機関で処置してもらいましょう。

ウイルスを持っているマダニに咬まれると日本紅斑熱やライム病、重症熱性血小板減少症候群の感染症にかかる恐れがある。

・蜂

蜂は巣を守るため、外敵に向かってくる習性があります。

人を刺すのはスズメバチ、アシナガバチ、ミツバチでこの順に毒性が強い。

現在日本では、毎年数名の方が蜂に刺されて亡くなられています。原因は、**アナフィラキシーショック**です。

アナフィラキシーとは??

アナフィラキシーとはアレルギー症状が短い時間で強く全身に現れることをいいます。私たちの体は、細菌やウイルスなどが侵入すると「抗体」を産生し、外敵より体を守る「免疫」という機能をもっています。しかし、ときに食物や花粉のように害のないものに過剰に反応してしまいます。これをアレルギーといいます。基本的にアレルギー物質に2回目に接するときに反応が起こります。しかし蜂の毒にはアナフィラキシーをおこす物質のヒスタミンが含まれているため、初めて刺された人でも起こる可能性があります。また、蜂に集団で1度にたくさん刺されると危険ともいわれています。

アナフィラキシーの症状

皮膚	蕁麻疹、紅斑、痒み、顔面や唇の腫れ
呼吸	呼吸困難、喘鳴(ヒューヒュー、ゼーゼー)、喉の異物感、
循環器	血圧低下、動機、失神、チアノーゼ(唇が青紫色になる)
消化器系	嘔気・嘔吐、腹痛、失禁

これらの症状が複数同時に起こるとアナフィラキシーの可能性が高いです。また、急激な血圧低下による意識消失などのショック症状も1割程度の方に現れます。

ショック状態や呼吸器の症状が現れた場合は速やかに「アドレナリン」を投与することが有効です。日本では、ハチ毒、食物、薬物等にアレルギーがあり、必要性の高い患者さんは自己注射できる薬を処方してもらえます。最後に「エピペン注射液」という薬を紹介します。

エピペン注射液 (アドレナリン自己注射製剤)

効果・効能：蜂毒、食物及び薬物等に起因するアナフィラキシー反応に対する補助治療(アナフィラキシーの既往のある人またはアナフィラキシーを発現する危険性の高い人に限る)

用法・容量：通常、アドレナリンとして0.01mg/kgが推奨用量であり、患者の体重を考慮して、アドレナリン0.15mg又は0.3mgを筋肉内注射する。

- ・1回使い切りタイプの自己注射薬です。
- ・**太ももの前外側の筋肉に注射します。**
- ・緊急の場合は、服の上からでも注射できます。
- ・アナフィラキシーの症状が現れたら、できるだけ早くエピペンを注射し、医療機関を受診する。あくまで補助治療剤ですので、使用後でも医師による診察が必要です。



